

「きたうらワン」ハロウィンフェスタに本格デビュー!

2年前に商店街で開催されたSMFの「回遊美術館Ⅱ」で誕生した「きたうらワン」。

今年は北浦和名物・阿波踊りのPRにも一役買いましたが、先日行われた「ハロウィンフェスタ」では、筆の筆にまたがりマントをひるがえす魔法使いスタイルで登場、フェスタを大いに盛り上げました。

缶バッジも大好評ですぐに品切れ、もらえた人はきつといいことありそう…

10月27日(日)の午後(3時～)北浦和西口銀座商店街ふれあい通りで「ハローハローハロウィン変身大作戦」というワークショップイベントが行われました。心配していた台風も過ぎ去り、秋晴れがひろがる絶好のワークショップ日和のなか商店街は、先着300名という人数を遥かに超えるお客さんで埋め尽くされていました。

イベントは大きく3つありました。ハロウィンバージョンの「きたうらワン」が貼ってある店舗を回ると、缶バッジとお菓子がもらえる「ハロウィン回遊(先着300名)」と、埼玉県理容美容専門学校の学生たちが行う「変身メイク(先着50名)」、そしてプロカメラマンによる「記念写真撮影会(先着100名)」です。

開始時刻の1時間前から総合受付のあるワードローブ周辺に人が集まり始め、3時には長蛇の列が出来上がっていました。参加者は皆工夫を凝らした衣装を身にまとっています。手作り衣装や、お揃いの衣装、そして好きなアニメのキャラクターに扮するなど、皆が思い思いの衣装を楽しんでいました。因みに仮装しているのは子どもた

ちだけではありません。保護者はいうに及ばず、ベットにまで衣装を着せて参加するツワモノも現れ、気合の入りが過ぎたスタッフの仮装に子どもが泣き出してしまい、という一幕もありました。残念ながらイベントの先着人数から漏れてしまうお客さんが続出してしまいましたが、それ



▲お菓子がもらえる店先の「きたうらワン」



▲きたうらワン缶バッジ

ぞれに仮装をした人が埋め尽くす商店街の雰囲気を楽しんでいる様子でした。

僕自身ハロウィンの仮装をすること自体が初めてだったので初めは困惑していましたが、日常から逸脱した雰囲気の中で、年齢も性別も、参加者もスタッフも、全員が一緒になって楽しむ様子に飲み込まれたみたいで、すっかり楽しんでしまいました。6時を過ぎる頃にイベントは終わり、人々は三々五々家路につきましたが、私は片付けを手伝いながらワークショップに集まった人々の熱気と「きたうらワン」の余韻に浸っていました。

(埼玉大学教育学研究科修士1年・石上研究室 森 一平)



▲受付にも長蛇の列



▲「トリック・オア・トリート」と言ってお菓子をもらう子どもたち

Interview

●ワードローブの小林和成さん(ハロウィンフェスタ実行委員長)へのインタビュー。

Q. 今回のイベントのスタッフは、どういった方たちですか?

A. ほとんどがお店のお客さんとその友たちがボランティアで手伝ってくれています。SNSではなくアナログな関係で集ってくれたことがとてもうれしいです。

Q. このようなイベントを開催する目的はなんですか?

A. 商店街を盛り上げることは勿論、北浦和全体を盛り上げたいと思っているので、美術館や北浦和公園、そして地域の学生さんにもっと参加してほしい。



Q. 反省点はありますか?

A. せっかく沢山の人が手伝ってくれているのに、指示がうまく伝わらず迷惑をかけてしまったこと。想定を超える方々にお越しいただいたので、イベントに参加できないお客さんを出してしまったこと。

Q. 今後の抱負は?

A. まずは今日お越しいただいたお客さんとボランティアスタッフに感謝です! ゆくゆくは親子ばかりでなく、大人もちゃんと楽しめるようなイベントにしていきたいと思っています!!

(インタビュー:埼玉大学教育学部4年 渡部美緒)